

受賞者一覧

一般部門

【最優秀賞】（1編）

養護教諭が行う「不登校・不登校傾向」児童生徒支援の可視化の試み

～個別支援記録シートと事例検討会の有効性の検討～

大和田小学校	養護教諭	池田 文乃	国府台小学校	養護教諭	横峰 真紀子
菅野小学校	養護教諭	不老 明日華	柏井小学校	養護教諭	白鳥 浩子
新井小学校	養護教諭	平沢 文恵	信篤小学校	養護教諭	浅見 唯
福栄中学校	養護教諭	赤羽 知里	大洲中学校	養護教諭	七星 佳世子

不登校・不登校傾向児童生徒に関わることが多い養護教諭は、成果が見えづらい支援を継続していくことに苦慮している。養護教諭の支援が本人の頭の中で言語化されずに展開していることが一因ではないかと考え、支援を可視化することと、支援を振り返り評価をすることがより充実した支援につながると考えた。そこで、OODA ループを用いた個別支援記録シートと PCAGIP 法を参考とした事例検討会の方法を開発し支援の可視化を試み、有効性を検討した。

【優秀賞】（2編）

ICT 機器を活用した書評文執筆の実践について

—『魔女の宅急便』シリーズからテーマを見つけて（6年）—

市川小学校 教諭 時田 裕

稿者はこれまで書評文を児童が執筆する実践を行ってきた。その際、課題となったのが、書評文を執筆する前に考えをもたせても、実際に批評文を書き始めると、考えを書き表せないということであった。本単元では ICT 機器を活用することで、こうした課題を克服することを目指した。実践は『魔女の宅急便』シリーズで行ったが、ICT 機器を活用することで、書評文に自らの考えを書いたり、交流で他の児童の考えに触れることができたりするなど、様々な成果があったと考える。

自分の思いを豊かに表現できる子の育成

～国語科における ICT 活用を通した伝える力の向上～

塩焼小学校 教諭 川口 麻衣子

国語が苦手な児童はどこでつまずくのかを、全国学力・学習状況調査の「書くこと」の結果を中心に実態を分析した。ICT を効果的に活用した授業改善を図ることで、「どの子も参加できる言語活動の充実」～体験や経験を生かして「書く」につなげる～を目指し、「自分の考えをもって、相手に伝わるように書くこと」をねらいとする言語活動を教科横断的な学習計画を作成し実践した。

【優良賞】（2編）

「校内教育支援センターの支援と成果」

～2校14年を振り返る～

第五中学校 教諭 荒井 克典

校内教育支援センターは不登校児童生徒の増加による必要から、設置する推進校も中学校だけではなく小学校に広がっている。しかし、手引き（試案）こそあるものの支援がどのように行われているか、担当者の言葉で具体的に聞くことはなかった。そこで、本校の支援が標準ではないものの、安心できる環境で生徒本人の意欲に働きかけことで、生徒が社会的自立を目指すために主体的に動き出す姿をたくさん見てきたことから、振り返りつつまとめる試みをした。

「自己決定できる主体的な学び」による『学びに向かう力』の育成を目指して
～AAR サイクルを基軸にした単元テストと理科の授業とを連動した取組から見えてきたこと～
第二中学校 スクール・サポート・スタッフ 溝口 浩司

「学びに向かう力」の育成は、VUCA の時代に活躍できる人材を育てていくための大切な取組である。「自己決定」を保証した「AAR サイクル」による「主体的な学び」を行っていくことは、「意欲の向上」にも効果的に作用し、将来に向けて「学びに向かう力」を育成していく上で、大きな成果が期待できる取組であるということが見えてきた。

フレッシュ部門(経験 5 年以下部門)

【優秀賞】（2編）

共に生きる菅野っ子を目指した総合的な学習の時間
～総合的な学習の時間を通した児童の主体性の育成とその手立て～

菅野小学校 教諭 濱野 稔平

現在、社会には多くの情報があふれ、常に変化し続けている。さらには AI の発展により身近な生活も大きく変化しつつある。このような変化の中を生き抜くためには主体的・対話的で深い学びを通じ、変化に積極的に向き合える態度の育成が求められる。本実践では児童の主体性を大切にし、児童が自ら課題を捉え様々な情報と向き合い、友だちや地域の方と協働して解決できる学習を構想した。そして、学習の振り返りをもとに、児童の主体性と意識の成長についてまとめた。

This is me!!

～互いの個性を認め合える学級を目指して～

菅野小学校 教諭 若林 健太

「This is me」（これが私）これは、私自身が大切にしている言葉である。今年度から受け持った学級では、お互いのことを受け入れることができず、学級としてのまとまりが感じられなかつた。また、人間関係がうまくいっていないが故に、多くの児童が「自分」を表現できずにいた。そこで、小学校生活最後の 1 年が、「楽しかった」と思えるような学級を目指し、児童たちが個性を認め合い、安心して「This is me!!」と表現できるような手立てを尽くした。

【優良賞】（1編）

「個別最適な学び」を取り入れた外国語科における授業実践
～ICT の効果的な活用を通して～

中国分小学校 教諭 石井 清弘

本実践は、外国語科教育に、「個別最適な学び」を取り入れ、個々の課題に合わせた学習を展開することで、学びの質の向上を目指して行った実践である。「個別最適な学び」を取り入れた授業実践を展開する手段として、効果的な ICT 活用について考え、実践し、授業実践を分析した。「個別最適な学び」を、ICT 活用を用いて取り入れて授業実践をしたときに、生まれた成果と課題を記した教育実践論文である。

*学校名は、令和 6 年度在籍校です。